作物栽培管理情報

令和8年11月号
大分県中部振興局 生産流通部 地域営農・水田活用班

水稲　紋枯病対策 ～R9年産に向けて～

〇紋枯病については９月号を参考にしてください。

◎伝染経路

紋枯病菌は、発病した稲の株や稲わらなどに形成された菌核の形で、土壌中や植物残さの上で越冬します。
翌年、代かきの際に菌核が水面に浮かび、水稲の葉鞘に付着します。
その後、菌核から伸びた菌糸が葉鞘に侵入し、病斑を形成します。

◎冬場にできる防除

・畦畔や圃場周辺の雑草管理
雑草が病原菌の越冬場所となる場合もあります。
発生が多かった場所は畦畔の雑草を刈り取りましょう。
刈り取った草は水田内や畦畔に放置しないようにしましょう。雑草管理だけで菌核をなくすことはできませんが越冬場所を減らすことにつながります。



紋枯病の病斑と菌核

・稲わらなどの植物残さの管理
収穫後、圃場へ残った稲わらや株などに菌核が残っていることがあります。早めに深くすき込んで代かき時に浮いてこないようにしましょう。なお、土壌中にも菌核が残るため、残さの処理だけで発生を防げるわけではありません。

◎来年度に向けて

・今年度、紋枯病が多発した圃場では来年度も発生することが予想されます。発生した圃場や発生範囲、被害程度などを記録し圃場ごとに整理しておきましょう。記録は来年度の発生状況の確認や防除の判断に役立ちます。
・来年度は過剰な窒素施用を避け、適正な施肥・栽植密度を心がけましょう。
・箱処理剤は必ず紋枯病対応のものを使用しましょう。

大豆　収穫時のポイント

〇今年産大豆は、平年と比較して最下着莢位置が低い傾向にあります。刈り取りの際に圃場の土を掻き込まないように注意が必要です！

◎汚損粒対策

大豆は規格外になると、経営所得安定対策の数量払の対象になりません。 規格外の原因の一つは汚損粒です。汚損粒は、収穫時の土や雑草等による汚れが原因になります。次の4つのポイントを徹底し、丁寧な収穫作業を心がけてください。

①収穫前に青立ち株や雑草の抜き取りの徹底

アサガオ、ヒユやホオズキ等の雑草や青立ち株は、汚損粒の原因になります。収穫前に必ず手取り除草を行い、圃場の外へ持ち出してください。

②大豆の収穫適期～手で折るとポキッと折れる状態～

収穫適期の目安は、**茎が灰黒色になり、莢を振るとカラカラと音が鳴り地際部の茎が手でポキッと折れる時期です。**
そのときの茎水分は５０％以下、子実水分18%以下となっています。収穫時期が早いと茎汁等による汚損粒や損傷粒が発生するので注意してください。



ヒユ科雑草（ノゲイトウ）

③収穫は露がない時間に！

前日が雨の場合は収穫を控えましょう。朝露や夜露は汚損粒の原因となります。露のない11時～16時に収穫しましょう。

④土の掻き込みに注意

土の掻き込みは汚損粒を発生させます。刈取り高さの目安10cm以上を必ず守ってください。土を掻き込んだ場合には、すぐに清掃してください。

（収穫時の事故に注意）

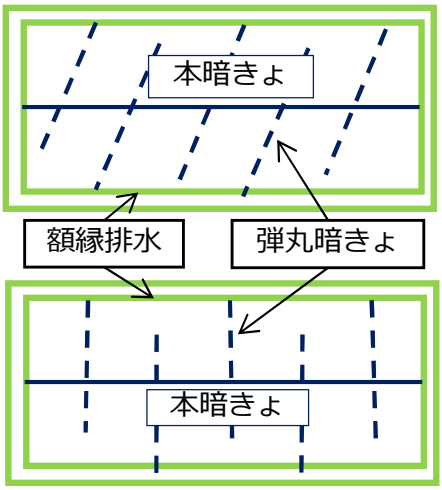
コンバインの回転部や刈刃に手足を近づけないようにしましょう。詰まりを取る前に、必ずエンジンを停止するようにしましょう。畦畔や傾斜地、軟弱な地面、ぬかるみでは慎重に走行するよう心がけてください。

麦　ほ場準備

◎**排水対策**　排水不良による湿害は、収量低下の要因となります。適期作業を行うためにも、排水対策を徹底してください。

弾丸暗きょ　約5mおきに深さ30cmで施工し、排水を改善します。また、弾丸暗きょを額縁排水溝につなぐことで排水効果が高まります。

額縁排水　圃場の額縁に溝を掘ることで表面排水が良好になります。排水溝は水の落とし口に必ずつないでください。



◎**播種直前に耕起**　耕起後すぐに降雨があると圃場が乾きにくく播種適期を逃します。適期播種のため、播種直前に耕起しましょう。

◎種子消毒

裸黒穂病等の種子伝染性病害は、種子消毒を行う必要があります。収量・品質低下を防ぐためにも必ず種子消毒を行いましょう！

麦種	薬剤	適用病害虫名	使用量
大裸麦 小麦	トリフミン水和剤	網斑病、斑葉病、裸黒穂病、 なまぐさ黒穂病	乾燥種子重量の 1kg当たり5g
	ベンレートＴコート	斑葉病、条斑病、裸黒穂病、 なまぐさ黒穂病	

※ラベル等をよく読んで使用しましょう

◎土づくり　酸度矯正 ～土壌診断で適切なpHに矯正～

麦は酸性土壌では、生育不良や黄化症状が発生しやすく収量が低下します。
最適なpH6.0～6.5にするために土壌診断を行い、苦土石灰等の土壌改良材を施用しましょう。

《粘質～壌質土壌の資材施用量（10aあたり）目標pH:6.0～6.5》

資材名	土壌のpH		
	<4.5	**<5.0**	**<5.5**
苦土石灰	**240 kg**	**140 kg**	**70 kg**

※土壌診断により石灰質資材の投入量が300kg/10a以上になった場合は、数年に分けて施用しましょう。

◎施肥　《施肥基準（ｋｇ／１０ａ当たり）》

	基肥	分げつ肥（4葉期）	穂肥（茎立期）
	化成肥料14-14-14	硫安	化成肥料16-0-16
大裸麦・小麦	40（N：５）	10（N：２）	20（N：３）

※一発肥料を使用する場合　・麦一発エムコート５５６　：　４５kg／１０ａ

◎播種

麦の最適播種時期は11月中下旬（11月20～25日）です。収量確保のため適期播種に努めましょう。播種の深さは3cm程度が基本です。

極端な早播きは茎立ちが早くなるため凍霜害を受けやすく、小麦の萎縮病や二条大麦の縞萎縮病のウイルス病発生にもつながります。遅播きは穂数が確保しにくくなり、収量の低下につながります。

播種期別の播種量（kg/10a）

	条播（ドリル播）
適期播（11/15~25）	6～8
晩播 （12月上旬）	8～10

○種子更新は毎年行ってください。
○適期にまけなかった場合は播種量を１０～２０%増量する。

◎雑草対策　播種前～直後防除

雑草対策は初期の段階から徹底して防除を行いましょう。

薬剤名	使用時期	10aあたり使用量		使用方法
		薬量	希釈水量	
ラウンドアップ マックスロード	耕起前または播種前まで （雑草生育期）	200 ～ 500 mL	50 ～ 100 L	雑草茎葉散布
リベレーターG （粒）	播種後～麦２葉期 （雑草発生前～ イネ科雑草１葉期まで）	4～5 kg ※砂土での使用はさける	–	全面土壌散布
リベレーター フロアブル	播種後～麦３葉期 （雑草発生前～ イネ科雑草１葉期まで）	60 ～ 80 mL ※麦に対して白斑症状を引き起こす場合があります	100 L	雑草茎葉散布 または 全面土壌散布

※カラスムギ等雑草が繁茂する圃場の対策

カラスムギ等の雑草は繁殖力が高く、雑草対策が疎かになってしまうと種子を落とし、対策が困難となります。収量を上げるためにも徹底した対策を行いましょう。

① 深　　耕・・・雑草が出芽できない深さに種子を埋めることで発生を抑えられます。
② 石灰窒素・・・播種３～４週間前に散布することでカラスムギ等の雑草を先に生長させ、非選択除草剤を散布して枯らすことができます。
③ 湛　　水・・・夏に水田へ一度戻すことで畑雑草を抑制できます。

農業情報メール配信の登録募集！

～米・麦・大豆の栽培管理情報をいち早くキャッチしよう！～

⭐ **登録方法** ⭐

配信受付（スマート申請システム）

https://ttzk.graffer.jp/pref-oita/smart-apply/surveys-alias/nougyouzyouhou

上記のアドレスまたはQRコードからアクセスし、メールアドレス等の必要事項を入力してください。後日、農業情報をメール配信します。

お問い合わせ先：大分県中部振興局　地域営農・水田活用班　電話０９７－５０６－５７９１
ホームページ　：http://www.pref.oita.jp/soshiki/11604/saibaikanrizyouhou.html